TOTO 社支援による「製造業体験学習」研修レポート（1）

１．今回の TOTO 社における製造業体験学習では、ミュージアム見学や本社各部署の方々からの講話を通じて、製造業全体における企業理念や組織文化の大切さを改めて認識することができた。特に印象的であったのは、TOTO 社の創業者である大倉和親氏の言葉や経営姿勢に繰り返し触れる場面であり、その中でも「どうしても親切が第一」という言葉が、単なる理念にとどまらず、企業全体に浸透している点である。製造業というと技術力や効率化が最も重視されると考えがちであり、私自身もそうであった。しかし TOTO 社においてはそれ以上に「人としての姿勢」や「日常の小さな積み重ね」を大切にしていることが、社員の方々のお話から強く伝わってきた。
ミュージアム見学では、TOTO 社がどのように衛生陶器を中心とした製品を世に広めてきたのかを学ぶことができた。単なる製品開発にとどまらず、生活者目線に立ち「清潔で快適な生活を提供する」という使命を一貫して追求してきた姿勢は、まさに「親切が第一」を体現していると感じた。また、展示されていた製品の数々からは、創業当初から現在に至るまで「改善と挑戦」を繰り返してきた企業文化の強さが見て取れた。これは製造業に限らず、どのような分野で働くにしても必要不可欠な姿勢であると実感した。
さらに、本社各部署の講話を通じて、「凡事徹底」という考え方の重要性を理解することができた。営業や開発、管理といった異なる立場にありながらも、共通して語られていたのは「小さなことを疎かにしない姿勢」が結果として大きな成果につながるという点である。当たり前のことを当たり前にしたことで得られた結果が今であり、この姿勢は、企業の業績を支える根幹であると同時に、社員の方々の仕事観にも強く影響していると感じた。
この研修を通じて私が学んだのは、製造業における「技術」と「理念」の両立の重要性である。技術的な進歩や効率化は確かに不可欠だが、それ以上に人間的な信頼や社会への貢献意識が企業を長期的に成長させる基盤となる。TOTO 社の歴史と社員の方々の姿勢を目の当たりにし、製造業を支えるのは最先端の技術だけではなく「人の心」に根差した価値観であると学ぶことができた。この学びは、今後の自分自身の働き方を考えるうえでも大きな参考になると強く感じた。

２．今回の研修で特に印象的だったのは、若手社員の方々との座談会であった。年齢の近い先輩方から直接お話を伺うことで、就職活動やキャリア形成において「将来を具体的に想像して行動すること」の大切さを強く実感した。単に「良い会社に入りたい」「安定した職に就きたい」といった漠然とした目標ではなく、自分が 5 年後、10 年後にどのような仕事をしていたいのか、そのために今どのような経験を積むべきなのかを意識することが、キャリアの質を大きく左右するという言葉が胸に響いた。
ある若手社員の方が、自らの経験を交えて「海外で活躍したいと思うのであれば、学生のうちに海外ボランティアや留学など、挑戦できる環境に積極的に身を置くべきだ」と話されていたのが特に印象に残っている。その方は、自分の将来像を明確に思い描き、その実現のために逆算して行動してきたからこそ、入社後のキャリア形成にも前向きに取り組めているとおっしゃっていた。この姿勢は、就職活動を迎える私にとって非常に参考になる考え方であり、今後の行動指針にするべきだと強く感じた。
また、就職活動においては「自己分析」や「企業研究」が重要であると言われるが、それらも単なる作業として取り組むのではなく、自分の将来像と結びつけて考えることが大切だと感じた。例えば、「海外で働きたい」という目標を持つのであれば、そのために必要なスキルや経験は何か、それを得られる企業はどこなのか、さらに自分自身の価値観とその企業文化が合致するのかを深く考える必要がある。今回の研修で学んだ「凡事徹底」の精神を活かし、目の前の小さな準備や努力を怠らずに積み重ねていくことが、自分の理想とするキャリアにつながると確信した。
さらに、就職活動を単なる「会社選び」と捉えるのではなく、「自分自身の人生をどうデザインするか」という広い視点を持つことの大切さも学んだ。TOTO 社の社員の方々が口を揃えて語っていたのは、働くことを通じて「社会にどう貢献できるか」を常に考えているという姿勢であった。就職活動においても、給与や待遇だけでなく、その企業の理念や社会への姿勢が自分の価値観と合致しているかを見極めることが重要だと感じた。この視点を持つことで、単に「入社すること」をゴールにするのではなく、「入社後にどう成長していくのか」を見据えたキャリア選択ができるはずである。
以上の学びを踏まえ、今後の就職活動では「将来を具体的に描き、その実現に向けた逆算思考をもつこと」「小さな努力を徹底して積み重ねること」「企業理念と自分の価値観の一致を重視すること」という意識をもって取り組みたい。今回の研修は、就職活動における姿勢を見直す大きな契機となり、社会人としての自覚を高める貴重な機会となったと感じている。

３．要望や困ったことは特にありません。本研修を用意するにあたってご協力いただいた多くの方々に感謝しています。製造業に関してのイメージが大きく変わる内容だと感じたので、可能であれば来年度以降も継続していくべき研修であると感じました。

TOTO 社支援による「製造業体験学習」研修レポート（2）

１．TOTO 製造業分野における研修での経験は、お客様第一の良心的な思いが利益も利益以上のものも産み出していることを知れた機会となった。優れたものづくりの根幹を成すものは、最先端の技術や設備のみならず、むしろ企業全体に浸透している理念と、それを体現する人財にあるのだと感じた。
その核心にあるのが、「TOTO WAY」と呼ばれる考えであると感じた。これは行動指針に留まるものではなく、創業以来の先人たちの想いや試行錯誤の歴史が、ベテラン社員から新入社員に至るまで、世代を超えて受け継がれる無形の資産となっている。この共通の価値観が、組織全体の意思決定における判断基準となり、全社員が同じ方向を向いて業務を遂行するための、役割を果たしている。
この考えが向かう先は、「お客様の生活をより良くしたい」という TOTO らしいお客様第一であると述べられていた。製品開発の現場では、単に機能やデザインを追求するだけでなく、使用者の日常に寄り添う「思いやり」や「やさしさ」といった価値観が重視されていた。
さらに、この受け継がれてきた思いや価値観が、社員一人ひとりの挑戦的な姿勢を育んでいた。研修中にお会いした社員の方々は、誰もが相手を思う思いやりを持ち合わせていた。共通の価値観によって失敗を恐れずに、新たな挑戦が新たなチャンスとなって個人に還元されるという好循環が、組織の活力を生み出していると感じた。
今回の研修は、技術力といった可視的な要素のみならず、企業文化という不可視な資産に深く根差していることを明らかにした。ものづくりとは、単に物を作ることではなく、理念を形にし、人々の生活に貢献することという学びを得たことは、今後の私自身のキャリアを考える上で、大きな収穫であった。

２．今回の研修は、単に製造業の現場を学ぶに留まらず、私が今後どのような姿勢で学生生活を送り、社会と向き合っていくべきかを考える、大きなきっかけとなった。今後の活動全般において、より協調性と積極性を意識していこうと思う。研修で目の当たりにしたのは、チャンスを待つのではなく、自ら行動することで道を切り拓いていく社員の方々の姿であった。
学生生活においても、未知の分野への挑戦を恐れず、自ら機会を創出していくことが、自身の成長に不可欠であると学んだ。
また、社会人として、また一人の人間として、「思いやり」や「やさしさ」を常に心掛けたい。TOTO の温かい社風は、社員一人ひとりの他者への配慮から生まれている。今後の学生生活におけるチームでの活動など、様々な場面でこの姿勢を忘れず、良好な人間関係を築く努力をしていきたい。
これらの学びを踏まえ私の就職活動では、自分自身の将来像を真剣に考え、そのビジョンと企業の理念が深く共鳴する場所を見つけていきたい。TOTO が TOTO らしい価値観を社員と共有し、一体となっていたように、私も自分が心から納得し、共感できる理念を持つ企業の一員となりたい。表面的な条件ではなく、その企業の根底にある考え方こそが、私がやりがいを持って働き、社会貢献していくための最も重要な要素であると、今回の研修を通じて確信した。

３．TOTO での製造業体験学習は、豊富な経験を持つ社員の方々と、これからを担う若手社員の方々、両方の視点からお話を伺える点に、申込時から魅力を感じていた。
実際に参加してみて、開発や営業だけでなく、事務職の方々のお話など、普段ではあまり聞くことのできないリアルな声に触れ、TOTO という会社の持つ一体感と、ものづくりへの情熱を肌で感じることができた。お話を伺い、自分もこの環境で成長したいという気持ちが芽生えた。
最終日のグループワークは、2 日間で学んだ知識や想いを、協働作業を通じてアウトプットすることで、学びが自分の中に定着していく実感があった。
この研修で得た感動と学びを胸に、今後の就職活動などに活かしていきたいと思えた。本当にありがとうございました。

TOTO 社支援による「製造業体験学習」研修レポート（3）

1. 最も深く勉強になり、今後のキャリア形成の参考になったのは、TOTO における企業理念と製造業の経営戦略が根幹で直結している点であり、それを永続的に支える「人財」育成の思想である。TOTO が社員を「人財」と表記している点に、その経営の根幹を見た。「人財」とは、社員を単なる労働力として消費するのではなく、会社および社員自身の未来を築く「財産」として捉えている証である。最高品質の追求という創業以来の理念が、結局は、高いスキルとモチベーションを持つ人の育成にかかっているという製造業の本質を示唆しており、全社員がやりがいを持って仕事に取り組めるよう支援する姿勢は、理念を体現するための具体的な経営努力であると理解した。特に、自律人財を目標とする 3 年間の OFF-JT プログラム、他社との交流によるリーダーシップの涵養、さらには海外グループや海外研修を通じたグローバルな視点の醸成は、TOTO が長期的な視点で組織力を高めていることを示している。製造業の経営とは、目先の効率化だけでなく、理念を軸とした一貫した人への投資が不可欠であることを強く認識させられた。
また、製造現場における「改善」文化と効率性についても深く学んだ。単なる技術や設備投資による効率の追求に留まらず、TOTO が創立以来掲げてきた企業理念こそが、現在の卓越した品質管理体制の基盤となっていることを理解した。現場では、最高品質を維持するための絶え間ない「改善」が日常的に行われており、わずか 1 秒を短縮するための工夫や、不良品をゼロにするための微細な調整は、すべて「お客様の信頼」という理念を具体的な行動に落とし込むための経営努力であることを体感した。特に、製造ラインの見学で確認できた、各工程における「後工程はお客様」という意識のもと、高い基準で品質が維持されている姿勢には感銘を受けた。人の手による繊細な作業と、最新技術による自動化が絶妙に組み合わされており、これは現場レベルで生産の最適化を高い次元で実現している、製造業の知恵そのものだと感じた。

2. 本研修で得た「人財育成」の重要性と、社員との座談会を通じて得た具体的なキャリア観を、今後の活動に活かしていく所存である。特に就職活動においては、大きな指針を得ることができた。社員の方々との座談会は、今後の進路を考える上で大きな転機となり、社員の方々の就職活動体験や、当時の就活軸について詳しくお聞きすることができた。キャリアを選択する際の考え方の多様性や、企業選びの軸を深く持つことの重要性を学んだことは、今後の自己分析に大いに役立つであろう。この学びを踏まえ、自身の就職活動の軸を単なる業界や職種で括るのではなく、TOTO のように「人」の成長を支援する明確な育成制度や、社会貢献性の高い理念を持つ企業を深く研究する軸を取り入れ、より具体的で揺るぎないものとして就職活動に生かしていきたい。
また、学生生活においては、製造現場の効率化の工夫や、体系化された育成プログラムから、結果だけでなく、その結果を生み出す「手順（プロセス）」を可視化・最適化することの重要性を学んだことを活かす。具体的には、研究活動や資格取得に向けた学習においても、この「改善」の視点を取り入れていきたい。例えば、課題に対する作業プロセスを細分化し、無駄な待ち時間や反復作業を削減するよう計画を見直すことで、自律人財を目指し、より短時間で質の高い成果を出せるよう努める。これは、大学で学ぶ経済合理性を、私自身の行動規範として適用することにつながるものであり、社会人になるための基礎的な力を養うことにつながると確信している。

3. 申込から研修終了まで、全体を通して非常に充実した学びの機会を得た 2 日間であった。特に、歴史と現場、そして人の育成という三側面から深く学べたことは、大変有意義であった。1 日目は、TOTO が創立された背景、これまでの歴史をミュージアムや工場見学、講話を通して深く知ることができ、事業の社会的意義と不変の企業文化の重みを理解した。2 日目は、各部門が実際に行っている業務内容を講話や座談会を通して知ることで、理論と現場の繋がりを具体的に認識でき、今後の就職活動に生かすことができる非常に良い経験となった。働く社員の方々の温かくプロフェッショナルな姿勢に心から感銘を受け、TOTO が長年にわたり社会からの高い信頼を築いてこられた理由を深く理解できた貴重な体験であった。